

私たちにとっての芥川新聞!

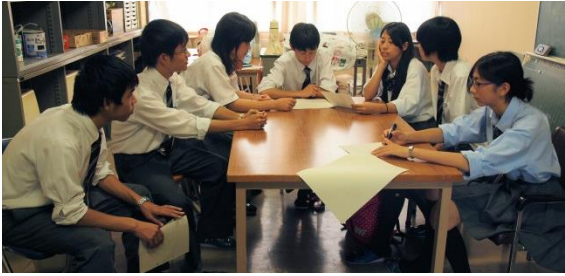


生徒会長

平成 26 年度前期生徒会会長の 〇です。私は 1 年生のころから生徒会執行部の活動をさせていたっています。生徒会執行部は学校全体の営などを行なっています。その他にも、CHEERS という団体に参加して他校との交流やエコキャップ活動をしたり、飛び地の「フレーザーガーデン」などでの地域の方々との交流も大切にしています。また、駅の周辺であしなが学生募金などの募金活動も行なっています。これらの活動は生徒会執行部役員だけで行うのではなく、クラスメートにも声をかけて、みんな楽しく取り組んでいます。

私たちのこれらの活動はいつも学校新聞「芥川」(以下、芥川新聞と書きます。)で取り上げてもらっています。私が生徒会のメンバーになって最初に芥川新聞で取り上げてもらったのは確か、あしなが学生募金の時でした。1 年生の冬とても寒く、立ちっぱなしで、道行く人々に声をかけたのを覚えています。募金して下さった方々に「頑張ってるね!」とほげましてもいい、その言葉の温かさにこっぴど元気をもらえらんだと驚きました。でもこれは、あくまでも学校外の活動なので、こんなことを生徒会執行部がしている友達も知らないのは少しさみしいなと感じている時に、芥川新聞に募金活動の記事が載っていて、とてもうれしかった。芥川新聞を見た友達数人が「めっちゃ頑張ってるやん!」とか「これから応援するね!」と言ってくれて、記事に載っただけでもうれしかったのに、そうやって友達から「見たよ」と言われてうれしさが何倍にもふくらんで、「これからも頑張らないと!」って思えました。

私が読んだ記事の中でミラニ高校との交流が特に記憶に残っています。オーストラ



リアの大自然の美しさやステキな人々との出会いがとても熱く語られていて、まるで自分もいっしょにそこに参加しているかのような気持ちになりました。他には体育祭や文化祭の記事になると、生徒会としての取り組みを振り返ったり、みんなと盛り上がったことを改めて思い浮かべて、感慨にふけりながら記事を読んでいます。

また、芥川高校のホームページからは芥川新聞を見ることができ、たまに家で家族と一緒にホームページを見ながら生徒会が載っている記事や学校の話で盛り上がることもありま

そういえば、中学の時に何度か芥川新聞を見ていました。高校の学校説明会やオープンスクールの時に配布されていて、その時、各学年の活動内容や様々な行事など、芥川高校のことがわかりやすくて楽しそうなお印象があったので、中学校の友人たちと「なんか楽しそうやね」と話したことを覚えています。

編集後記

* 今回は、芥川新聞発行を引き継いできた歴代担当者のコメントです。

大阪府立成城高等学校 校長



200 号発行、おめでとうございます。校長先生のもと、創刊号を発行した当時は、このようなスピードで発行できていなかったもので、私以降の方々が大変な

し、驚嘆しております。

私が教頭として赴任した当時の芥川高校は、先生方の雰囲気は温かく、気持ちよく仕事をさせてもらいました。ただ、その一方で情報発信については活発でなく、学校案内リーフレットでさえ一部のミドルリーダーの想いで発行されていました。校長主導の情報発信が必要であると考え、「学校新聞」を教頭が記事を集めて発行することを職員会議で報告したところ、一部に疑念の意見もありましたが、多くの先生方は極めて協力的でした。創刊にあたり、ICT に長けた 教諭(当時)に技術的な指導を受け、番号は私が編集していましたが、早々に 教諭にバトンタッチしました。現任校の成城高校でも赴任直後から学校新聞「せいじょう」を音席に発行してもらっています。芥川高校の発行スピードには及びません。大変なご尽力にあたたかめに敬意を表します。

大阪府立勝山高等学校 教頭



200 号発行おめでとうございます。学校の情報発信を強く望む保護者の声に心えて平成 17 年度当時の

創刊され、途中から引き継ぎ、平成 21 年度まで編集を担当しました。発刊当時は、サッカー部のインターハイ出場、和太鼓部の全国大会優秀賞受賞など生徒がめざましい成果を上げており、学校全体が活気にあふれていた頃でした。おかげで、その後も記事に困ることはなく、目標にしていた月 2 回の発行ペースは難なく維持できました。私は、速報性と視覚に訴えることを重視していたため、記事は情報発信者のお名前を借りて、ほとんど自分で書き、自前のデジタルカメラを持ち取材のため部活動の試合などにもよく出かけました。生徒ばかりでなく、PTA や後援会も多くの記事を提供してくださりました。そして、校長(平成 18・19 年度)が、高槻市教委に相談くださり、市内の中学校に「芥川」を配布していただけるようになったことも、発行する意欲と内容の充実にもますます拍車をかけてくれました。転勤に伴って、先生に引き継いでからは、さらに頻繁な発行ペースと、編集者ではなく発信者が記事を書き書いておられると伺い、まさに学校新聞の理想であり、完成した姿だと感服しております。今後さらなる多くの方々に愛読される「芥川」でありつづけることを信じております。

大阪府立芥川高等学校 教諭



ついに 200 号発行。感動一入(ひとしお)です。首席から首席の仕事(当時)は首席でした。を引き継ぐときに、何よりも不安だったのは、学

校新聞「芥川」の発行を継続することが自分にはできるのだろうか? ということでした。しかし、新米首席の私を周りの先生方が快くフォローしていただき、気が付くと、新聞記事のほとんどは先生方の寄稿で埋まるようになりました。それどころか、号を重ねるごとに先生方の生徒たちに対する熱い思いに比例して寄稿してくださる記事の文章がどんどん長くなり、新聞の発行数が増えていきました。結果的に昨年、一昨年は年間 30 号も発行するとても活動的な(!!) 学校新聞になってしまいました。

また、私が担当した 4 年間は進路実績が伸び、学校が変化した 4 年間でもありました。このため、新聞でも年を追うごとに進路面の記事が増えていきました。

このたび、学校新聞「芥川」を担当した 4 年間の集大成として、この 200 号を担当させていただきました。改めまして 9 年間の記事に目を通して実感したのは、あらゆる面で芥川高校は目覚ましい歩みを遂げてきたのだというものでした。

今後とも、さらなる歩みをつづける芥川高校であるとともに、学校新聞「芥川」も歩み続けていくことを期待します。

大阪府立芥川高等学校 首席



今年度より、学校新聞「芥川」の編集を担当させていただきます。発行していく中で今までの記事を読み返してみると、芥川高校が様々な取り組みを行ってきた

ることを改めて知ることができました。現在は教職員の間から多くの記事の発信によって、不慣れながらもかま月 2 回の発行にこぎついています。職員室前に A1 版の新聞を掲示しているのですが、生徒たちが新聞を見ながら話している様子をよく見かけます。発行者として、とてもうれしく感じる瞬間です。今後も芥川高校の生き活きとした姿を発信していきたいと考えています。